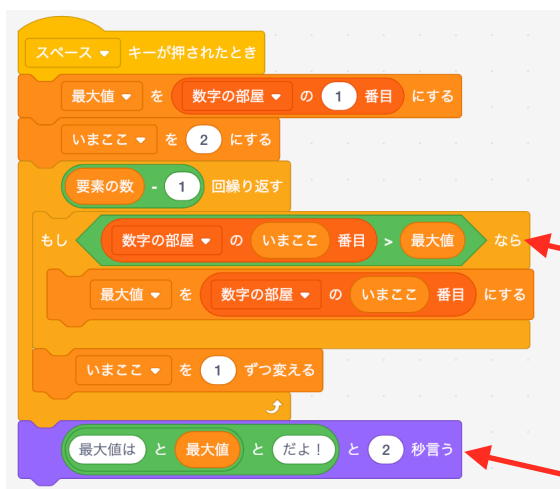


第6章 チャレンジ、ステップアップ 解答と解説

チャレンジ6.1.c1



テキストにあったように、変数「最小値」の名前を「最大値」に変更します。



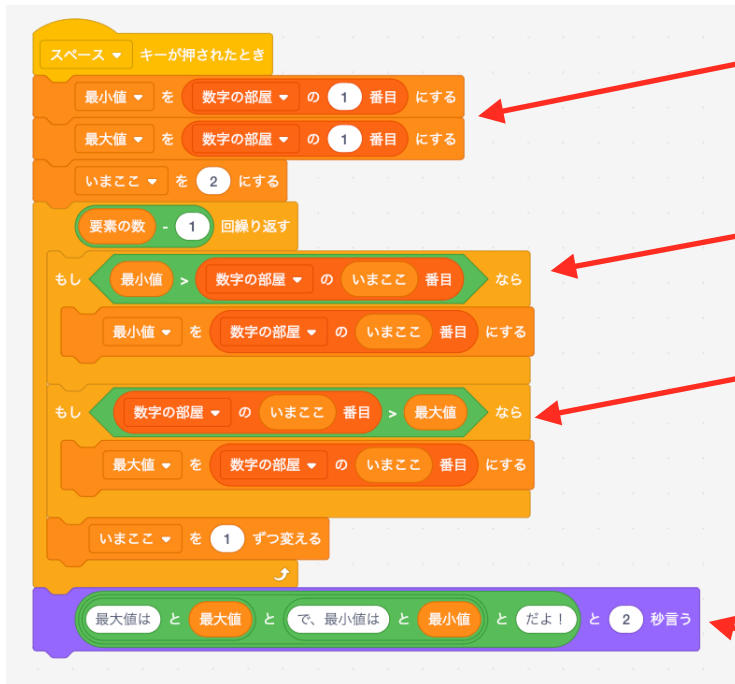
「もし～なら」の条件式の左右を入れ替えるだけです。

ネコのせりふを変更するのを忘れないようにしましょう。

チャレンジ6.1.c2



変数「最大値」、変数「最小値」の両方がなければいけません。なければ作っておきましょう。



「最小値」、「最大値」にそれぞれ1番目の要素を入れておきます。

比較です。「最大値」よりも「いまここ」の要素が大きければ、変数「最大値」に「いまここ」の要素を入れます。

同様に、最小値よりも「いまここ」の要素が小さければ、変数「最小値」に「いまここ」の要素を入れます。

つまり、繰り返しのなかで、「最小値」の比較と「最大値」の比較の両方をやります。

ネコのせりふも変えておきましょう。

ステップアップ6.1.s1



平均値を求めるために、変数「合計」を作ります。

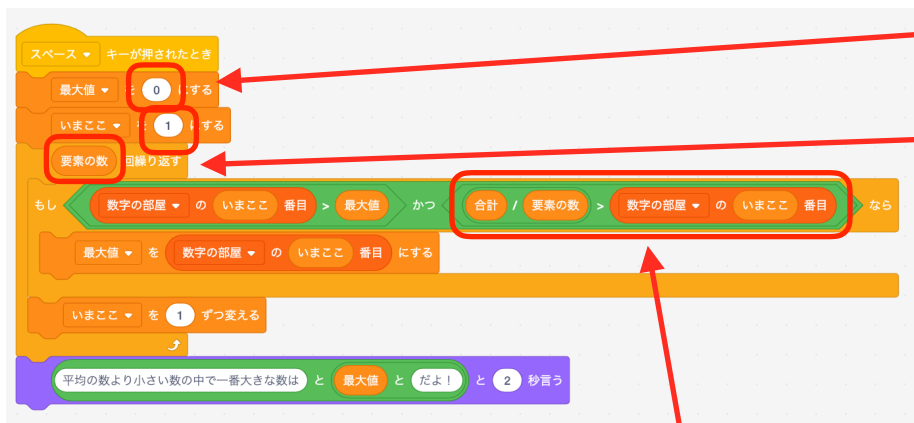


リスト「数字の部屋」を作ったら、要素の合計を求めます。

合計を0、いまここを1にします。

リスト「数字の部屋」の数を全て足していきます。

図のようにスクリプトを修正します。



「最大値」には仮に0を入れておきます。「いまここ」は1から始めます。

「要素の数」回繰り返します。

- 1) 「『いまここ』の要素の数が最大値よりも大きいかどうか」をチェックするとともに
 - 2) 「『いまここ』の要素の数が「合計/要素の数」（つまり平均）よりも小さいかどうか」もチェック
- 両方の条件を満たした場合に、変数「最大値」が「いまここ」の要素の数に置き換えられます。

最初に仮の最大値として、1番目の要素ではなく0を入れる理由：

1番目の要素が平均よりも大きい場合、誤って1番目の要素が最大値になってしまうからです。今回のスクリプトでは、繰り返しの回数が「要素の数-1」ではなく「要素の数」になっていますが、これは、1番目の要素も「もし～なら」のところで、平均よりも小さいかどうかをチェックしなければいけないためです。